



第14回 校友会

2025年11月23日(日・祝)

会場：東京いずみ幼稚園

時間：11:00～14:00 受付10:30～

(参加者) 卒業生のみ



2024年11月23日に第13回校友会を開催しました。約400名の卒業生、職員OBの方にご参加頂き、久しぶりの再会や笑顔にあふれた一日でした。懐かしい園舎で遊び、先生達と話している様子を見て、幼稚園がいつまでも皆さんの帰ってこられる場所であることを改めて感じました。さて、今年は幼稚園創立50周年！ゲームや模擬店、特別なイベントを用意してお待ちしています！是非お誘い合わせの上ご来園ください♪



校友会HPはこちら↓



つながる50年、紡ぐ未来



東京いずみ幼稚園 園長

小泉敏男

～「あの時」が「今」を育てる、いずみの原体験～

「トシなら子供が来るよ」――。

今から五十年前、一人の友人の言葉が、若き小泉敏男先生の心を動かし、ました。

大学在学時から二年をかけて準備し、卒業と同時に幼稚園を開園してから五十年。子どもたちには最高の体験を、と願い、今も園長として教育の第一線に立つ小泉敏男先生に、いずみ幼稚園の歩みと保育に込めた信念、そして卒園生たちの「声」と共にお話を伺いました。

原点と幼少期の記憶

五感で刻まれた農家の暮らし

——團長先生のご実家や、ご兄弟の事について伺えますか？

私の実家は、農家で土地が少なかつたものですから、昭和二〇年半ばに父が養鶏を始めました。兄弟や親戚の手も借りながら、だんだんと大きくしていつて、足立区で一番と言われるほどの鶏の数を飼っていたようです。私は四人兄弟の三番目。上に姉が二人いて、下には年子の弟がいました。体が大きかったこともあり、小さな頃から鶏の世話や餌づくりを手伝っていました。

園長先生は、幼稚園に通わっていたと聞きましたか。

はい。常善院の敷地内にある大谷田幼稚園という園に通っていました。当時は幼稚園に行く子は少なく、町内の子供達の中で通っていたのは三人ほど。その園では器楽演奏もあり、私はいつも太鼓を担当していました。音楽に触れる機会が多かったことも、とても貴重な経験だったと思います。

—— 幼少期の暮らして印象的だったことは？

仕事のことですね。父も母も、おばさんも、家族みんなで仕事をしていました。鶏の餌をつくるのがまた大変で。魚屋でもらってきたあらを煮て、糠や貝殻を混ぜて

あの強烈な匂いは、いまだに覚えています。
鶏は、三六五日世話が必要なんです。朝
四時には鳴き出すし、匂い、音、景色。五感
で全部、記憶に残っています。

——幼児期の経験が、今の園長先生にどう影響していますか？

今振り返ると、自分の性格や考え方を形づくる大切な時間だったと思います。嬉しいことを一緒に感じてくれる大人がいて、誰かの役に立てることが楽しい。そうした“自信の芽”を育ててくれたのは、幼稚園や家庭での毎日の積み重ねでした。だからこそ今の子供達にも、小さな「できたー」や「ありがとう」の経験をたくさん積んでほしいと思います。それが、確実にその子の将来の土台になるから。

「働くことは当たり前」
だった思春期

養鶏の苦勞と轉機

——ご実家の養鶏では大変なご苦労があつたそうですね。

苦勞といへば、鳥の病氣が出て、何千羽という鶏が全滅してしまつたことが何度かありました。畑に穴を掘つて、亡くなつた鶏を埋める。それはもう、大變でした。その後、父が中華そば屋を始めましてね。その時は中学生で、毎日お店の手伝いをしていました。店の掃除に、土日は出前。自転車でラーメンを六つ積んで走つて。自分で本当によく働いたと思います。

——商売の中で、学んだことも多かったのでは？

とにかく働きました。家業は日曜も営業していたので、遊びに行くのが難しかった。お店の他に、江戸川の土手でゴルフのキャディーのバイトをしたこともあります。お客さんにからかわれたり、ジュースをもらったりしてね、楽しかったですよ。人の人情に触れることも多かった。家業を手伝う日常も、アルバイト先で出会う大人たちもそれぞれに学びがありました。

「働くことが当たり前だったのですね。はい。働くことが当たり前という感覚、世の中の仕組みを少しずつ理解し始めた時期だったと思います。中学生であつてもちゃんとやれば大人に認めてもらえる。外の世界を知ること、家では得られない経験ができました。」

学びの原点と塾の始まり 友人の一言がきっかけに

——大学生になり友人からの言葉で塾を始めたのですが、どのような塾だったのですか？

幼馴染みの友人から「トシなら子供が来るよ」と言葉をかけてもらった事もあって、近所の小四から中三までの子供たちを対象にした、小さな塾を開きました。生徒募集のポスターは、自分で描いて貼ったりして。最初は六人だった生徒も、半年で一五〇一人に増えて、最終的には三〇人以上来ていました。面白かったのは、子供が勝手に友達を連れてきてね、「入れてください！」って、申し込みも何もなく、いきなり座っていることもありました。

——塾では勉強以外の取り組みもされたとか？

色々やりましたが、キャンプもやりましたね。ご飯を作って、子供達を連れて、様々な事をやって子供を喜ばせました。ステレオやアンプとかを揃えて塾に置いていたので、音楽も子供達によく聞かせていました。楽しみながら通える塾だったと思います。でも、楽しいだけじゃ駄目。成績を上げてあげないと。塾としてもそうですが、生きていく上で、努力をして成績が上がるっていい



幼稚園時代
すでに今の顔の面影が...

うことは自信に繋がる。極論を言えばやる気スイッチ。だから、褒めて自信をつけさせることを大事にしていました。この塾時代の経験が今の育み教室の基礎になっていると思います。

幼稚園創設と初期の挑戦 工夫と苦労からの学び

——塾を運営する中で、どのようなきっかけで幼稚園を開園することになったのですか？

単純に子供がかわいいという気持ちと、自分自身の幼稚園時代の思い出があったからです。僕自身もサラリーマンになるほど頭が良いわけではなく、オイルショックによる就職難の時代でした。そもそも、もう塾をやっていたので、こういう方が好きだし、自分に合っているなと思いました。大学二年生の頃からやりたいと考え始めて、母の実家近くで別の幼稚園を立ち上げた方と繋がりができたのは大きかったですね。理事長さんから書類の書き方を教えてもらったりして、大学三年生の時にやろうと決めました。

——開園当初はどのようなことが印象に残っていますか？

園児募集をしたら、建物も建っていないのに一四〇人も集まったのには、すごく驚かれました。塾の評判が良かったようで、多少は認知されていたのかもしれない。あとは、塾の時と同様に、自分で園児募集のポスターを描いたり、団地の小さな子供がいる家庭を一軒ずつ訪問したりしました。いわゆるセールスマンです。こうして園児が集まったのはいいのですが、トラブルもありました。園長で頼んだ人が病気になるてしまつて、開園したのに園長が不在。あとはどの職場にもあると思うのですが、四人いる担任が、新人と先輩で意見が合わず仲違いをしてしまつて、いわゆる内部崩壊です。まだ園長が戻らないうちに担任二人が一度に辞めてしまいました。園児がこれだけいる中で退職者も出るなんて大事件でした。これは私の未熟さが原因です。でも幸いにして他から先生が探せて、結果的には良い人選ができたと思います。

行事で育む、子どもたちの心

——いずみ幼稚園といえば、やはり行事が印象的ですが、開園当初はどのような行事が行われていて、どのような様子だったのでしょうか？

コンセプトはずっと変わらず、『賑やかに楽しく盛大に』。お泊り会では塾の子供にも手伝ってもらつて花火をして、運動会も狭い園庭でも工夫して実施しました。クリスマス発表会、今でいうお遊戯会では職員・保護者の出し物もあつて、みんなで楽しみました。豆撒きもこだわりました。なまはげのイメージを入れて自分でお面を作り、自分で鬼役もやりました。常に改良改善を重ね、去年よりもっと良く、もっと面白くしようと工夫をして、大切にやってきました。

自立と自信を育てる 三つの出会い

「運動」「漢字」「音楽」

——カリキュラムはどのように取り入れていったのですか？

一番目は運動
子供を見てみると、運動が得意な子と苦手な子の差がはっきりしていました。できるという経験が自信に繋がる。その大切さを感じて、運動を教育に取り入れました。順天堂大学院の学生に協力してもらい、一年目から組体操の指導を始めました。その後、私自信水泳が苦手だったということもあり、当時の幼稚園では珍しかった温水プールもつくりました。

二番目は漢字教育

塾時代の経験から、幼い頃に国語力を身につける重要さを感じ、具体的な方法を探していた時に石井式漢字教育に出会いました。石井先生に直接お話を伺った時の感動は今でも忘れられません。知的障害のある人でも本が読める、という断言をされたことです。実際に石井先生の本を読んで、幼児教育で漢字を使うなんてとてもない！と思いましたね。でも、その中でもないことを、理屈をもって語り、実践している。その事実にとっても興味を持ちま

した。当園の子供達にも自由に本が読める喜びを味わってほしい。そんな強い思いで、石井式漢字教育を導入する決意をしました。

三番目は音楽

MSの譜久里先生との出会いをきっかけに導入しました。実は私自身、音楽にはずっと憧れがありました。歌うのも聴くのも好きだったけど、楽器はできない。音感にも自信はなかった。でもだからこそ、音楽って面白いな、教育に取り入れたいなっていう気持ちが強かったんですね。また、幼児教育において音楽は心を育てる情操教育であり、言葉と同じように人間性や思考力にも繋がります。ただ、現場では音楽の専門知識が乏しく、現実とのギャップも多く苦労しました。アイマスにも批判の声がありましたしね。音感について本当に理解できたのは、この二〇年ほど。合唱団も手探りでやってきたけれど、今はまったく迷いはないです。絶対音感には誰にでも定着するし、自立自発の芽もMSで育つと確信しています。僕は幸運にも一〇年以内に、感動できる三つの出会いがありました。

保育に込める信念

——実際の教育ではどのようなことを大切にしましたか？

子供の基本的性格は、本当に理屈ではなく感覚でしかない。だからこそ、この子の性格はどうやって形づくられていくのか？と考えると、それは毎日の繰り返ししかないのです。例えば、良い歌を笑顔で楽しく歌う。そういう積み重ねが、その子の性格や行動パターンに自然と影響していき、明るくニコニコした表情で歌う子は、やっぱり明るいキャラクターになる可能性が高い。それくらい、日々の小さな積み重ねは大きく、ちゃんと子供に宿ります。素直な子に育てたいとよく言いますが、じゃあ素直とは何なのか。それは例えば、人の声に耳を傾けて、頷けること。それがあつて初めて、自分の意見も自然と持てるようになる。つまり、素直さと自発性は、実は隣り合わせなんです。そしてそれは、音を聞いた瞬間に始まっている。だから、素直な心というの

は、素直になるための条件反射をどれだけ日々積んでいるかにかかっているのです。それが自然と心に根づいてくるのだなと、子供の成長を見ているとわかる気がします。だからこそ、親はその姿を「よくできたね!」と喜んであげる。先生は喜んで褒めてあげる。そうやって喜びで受け止める姿勢こそ、周りの大人にとって一番大切なことなのだと思います。

卒業生の声が語る五〇年 「できた!」の記憶が自信に

——今回、幼稚園創立五〇周年を記念して卒業生アンケートを実施しましたが、結果をご覧になっていかがでしたか?

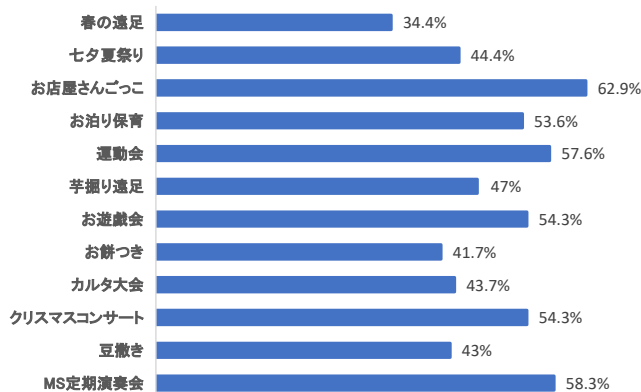
今回の結果を見て思うのは、力を入れて準備した活動は、ちゃんと子供達からも高く評価されているということ。子供をどう評価するかと考えた時、大切なのはきちんと育ててあげることだと思うんです。それが、本当の喜びに繋がる。だからこそ、ごっこあつても、きちんと意味のある取り組みとして本気でやるのが大事なんだと痛感しました。

——『Q.印象に残っている行事』はどれも大差ない程、印象深い様ですね

楽しかったという声が多かったのは、本当に嬉しいですね。練習も苦労しただろうに、かるた大会が良かったっていうのも凄いですね。クリスマスコンサートは、この行事を目標にして僕は教育活動やってきたので。これは僕にとっては、「うちを卒業する子供達はどれだけ成長したかな?」という、ものさしみたいなものです。みんな喜んでくれて嬉しい限りです。



印象に残っている行事(複数選択可)



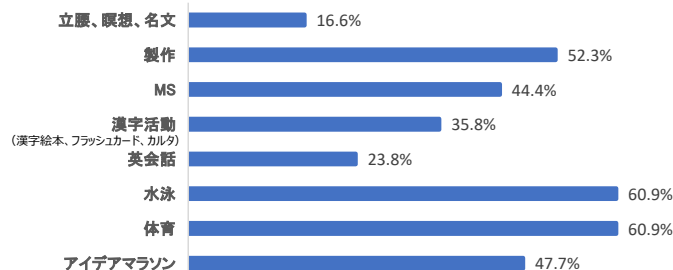
——好きだった活動は水泳、体育が同率一位ですが、いかがですか?

これはもう、できるようなったから好きなんです。それはストレートに自信に繋がって、好きになるのも当然ですよ。これもまた、「インプットに嘘はない」という、そのままでの結果だなと感じました。

——自由入力の欄は、とても興味深いものが見えてきます。一番共通しているのは自信です。

面白いですよ。学業とか音感、漢字について、いかにも評価されそうなことは、ほとんど出てこない(笑)。でも、それが本当にそうなんです。結局、一番大切なのは能力ではなく心、非認知能力ですね。保護者や子供達から寄せられた自由記述を見て強く感じたのは、できた!という経験が、確実に自信へと繋がっているということ。それがこのアンケートにしっかりと表れていますね。この結果は、私たちが幼稚園で大切にしてきたこと、そして日々の保育の中で子供達の心を育ててきたことが、しっかり形になって現れているという証でもあります。自信のある子に育ってくれたんだと思うと、本当に嬉しいですね。

好きだった活動(複数選択可)



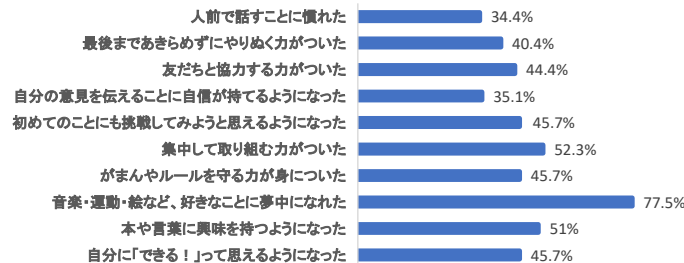
メッセージとこれからの未来へ

笑顔と自信に満ちた未来へ

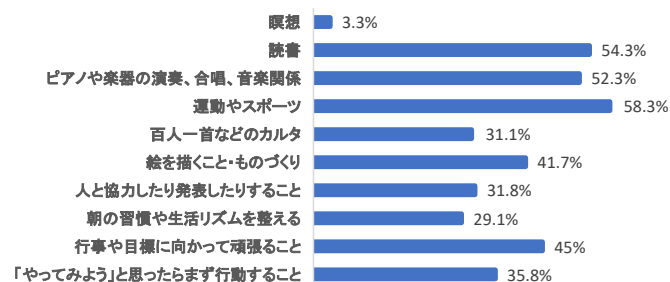
——最後に、卒業生の皆さんと保護者の皆さまへメッセージをお願いいたします。

これまで五〇周年と言うと、園としての節目、そして皆さんと共有する記念の年という思いが強かったのですが、私自身にとっては、ここまで支えてくださったすべての方々への心からの感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございます。皆さんからいただいたたくさんの温かい言葉、ひとつひとつが私にとって大切な宝物です。そして今度は、その言葉を自分自身に置き換えて、これからの人生を歩んでいく上での大きな土台・基礎として、しっかりと刻んでください。そして、その上で一步一步、大きなステップを踏み出していってほしいと、心から願っています。また、皆さんの嬉しいご報告や近況など、良いお知らせをたくさん届けてください。

幼稚園の経験で、身についた事や自信がついた事がありますか?(複数選択可)



幼稚園の影響があって続けている事や始めた事がありますか?(複数選択可)





1976年4月第1回入園式



1978年3月 第2回卒園式職員集合写真



MSの公開保育の様子



合唱コンクール受賞の報告会

1983年4月 屋内温水プール落成式
お祝いの花輪がずらり！今では中々見られない光景

1985年 創立10周年の際に撮影された航空写真



2002年 幼稚園での運動会



朝礼での四股



昔も英会話を取り入れていました



運動会では、仮装行列もやりました

2008年新園舎完成！区画整理直後で
現在の駐車場はまだ空き地でした

園行事

季節を感じる行事の中で、子どもたちは「わくわくする気持ち」や「みんなと協力する楽しさ」を見つけました。どの行事にも、その時々の子どもの姿と、先生や保護者の温かなまなざしがありました。形をかえながらも、子どもたちの成長を喜び合う行事の心は、これからも変わることなく受け継がれていくことでしょう。



七夕夏祭り、お母さん達で炭坑節を踊りましたね



先生達手作りカレーライスを前にいただきます！



遊具の前でしゃぼん玉飛ばそう



旧園舎のホールでクリスマス会



1977年12月 クリスマス会

運動会は園庭で行われていました。若かりし頃の園長先生！
楽しそうですね♪

旧園舎のホールでお遊戯会『白雪姫』



1999年12月 お餅つき



入園式 年長合奏発表



2003年 第12回 MS定期演奏会



豆撒きの鬼は、いつの時代でもリアルです

10年後の自分へタイムカプセルを贈ろう！

おかげさまで本園は今年で開園50周年を迎えることとなりました。これまで園を支えてくださった全ての皆さまに、心より感謝申し上げます。

この節目の年にあたり、11月23日(日)に開催される第14回校友会において、記念事業の一つとしてタイムカプセルを実施いたします。

未来の自分や大切な人へのメッセージ、今の思いや夢などを形に残し、10年後に開封する予定です。この特別な年に、是非「今」を残す体験を一緒にしてみませんか？

対象：東京いずみ幼稚園卒業生本人・保護者

内容：「10年後の自分へ」今の事、そして10年後の自分へメッセージを贈ります

記入方法等：① 卒業生の方：所定用紙「10年後の自分へ」にご記入ください

所定用紙は、校友会HPからダウンロードできます

保護者の方：用紙形式は自由です

ご自身やお子様へのメッセージなど、自由にご記入ください

② 記入後は各自で『**長形3号**』の封筒をご用意の上、
用紙を封筒に入れて封をしてください

③ 封筒の裏面に、**i) 日付 ii) 学年 iii) 氏名** をご記入ください

※保護者の方はお子様のお名前もご記入ください

提出方法：校友会当日（2025年11月23日）にお持ちいただき、回収ボックスに入れてください

<当日校友会に参加できない方>

校友会を欠席される方は、下記宛先を記入の上、本園まで郵送もしくはご持参ください。

【宛先】〒121-0053 足立区佐野1-20-10

東京いずみ幼稚園校友会 タイムカプセル係宛

皆さまの思いが詰まったタイムカプセルが、未来に届く日を楽しみにしています。
多くの皆さまのご参加を、教職員一同心よりお待ちしております！

皆さん覚えていますか？

10年前のタイムカプセルを開封します！

10年前、「未来の自分」へ向けて書いたタイムカプセルの手紙。いよいよその手紙を開封する時がやってきました！10年前の自分から届くメッセージ。あの日の思い出を一緒に振り返ってみませんか？

日時：2025年11月23日(日) 校友会 11:00~13:00

場所：東京いずみ幼稚園 2F菖蒲組

対象：右記QRコードより、名簿をご確認ください



※当日受取に来られない方は保管期限内にご来園ください。

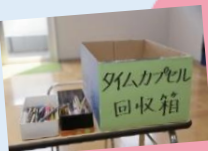
保管期限：2026年1月30日(金) 受付時間：平日 9時~17時

※遠方に住んでいる等の理由で来園が困難な場合は、園までご連絡ください。

TEL:03-3605-3341 MAIL:info@izumi.ed.jp

ご都合のつく方は是非お越しください。

皆さんと再会できるのを楽しみにしています♪



東京いずみ幼稚園 令和6年度 行事紹介



7月：お泊り保育(年中)

家族と離れての初めての泊り！泣いてしまう子もいたけど、お友達と楽しい一日を過ごしました♪

9月：お店屋さんごっこ

ケーキ屋さんに玩具屋さんに楽器屋さん。色々なお店で賑わいました！

10月：運動会

1学期から練習に取り組んだ年長さんの組体操。足を真っ白にさせながら頑張る姿に、とても感動しました！



11月：お遊戯会

年少さんは初めての大きな舞台。緊張することなく練習の成果を存分に発揮することができました♪

1月：漢字かるた大会「いずみ杯」

びっくりするほどの子供たちの集中力！今年も大熱戦が繰り広げられました！

2月：MS定期演奏会

大迫力の合奏にきれいな歌声！終始大きな拍手に包まれた演奏会でした♪

一緒にいずみグループで働きませんか？

東京いずみ幼稚園卒業生

鈴木綾乃先生 幼稚園教諭として活躍中！

幼稚園や保育園で働きませんか？卒業生や保護者の方々、大歓迎！

幼稚園

- ・幼稚園教諭
- ・預かり保育担当
- ・送迎バスの添乗

保育園

- ・保育士
- ・保育補助員

申込は
こちらから！



☎03-3605-3341

足立区の広報にも抜擢されました！

足立区はカフェや銭湯、商店街もあり、とても住みやすい街ですよ。支援制度のおかげで、充実した幼稚園教諭生活が送れています。一緒に働きましょう！

鈴木綾乃先生 が紹介された動画がYouTubeで公開中です！是非見てくださいね！



創立50周年記念シンボルマーク表彰式



本園の創立50周年を記念して募集したシンボルマークの表彰式を令和7年3月15日に行いました。最優秀賞をはじめとする入賞者の皆さんに賞状と記念品が贈られ、会場は温かな拍手に包まれました。アイデアマラソンで培った発想力や創造力が存分に発揮された、とても素敵な作品ですね♪
受賞された皆さま、本当におめでとうございます！
そしてご応募くださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。(学年の表記は表彰日時点による)



最優秀賞



始澤 孝祐くん
(小学3年生)



優秀賞



宇田川 眞丘さん
(小学2年生)



笠原 恵葉さん
(小学2年生)

第50回運動会

卒業生駆けっこ 参加者募集！

【日時】令和7年10月12日(日)

【場所】辰沼小学校 校庭

【競技】卒業生駆けっこ

【参加方法】当日ご来校ください

集合時刻 10:35

開始予定 10:55

※雨天順延 10月13日(月・祝)



自分で考えて動く力がつく

『最高の育て方事典』

どんな子も必ず伸びる56のメソッド

海外からも注目！東京いずみ幼稚園の「育て方」を完全公開。家庭ですぐ実践できる56のメソッドで、子どもの主体性・表現力・思考力がぐんぐん伸びる！親子で学べるイラスト付き教育バイブル

お買い求めはコチラから



Amazon

小泉敏男先生の
著書が発売！！



第35回 MS定期演奏会

東京文化会館で開催決定♪

園創立50周年記念の会場は、クラシック音楽の殿堂とも言われる東京文化会館。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

【日時】令和8年2月20日(金)

【場所】東京文化会館

東京都台東区上野公園5-45

【アクセス】JR上野駅 公園改札から徒歩約1分

【詳細】観覧ご希望の方やその他詳細につきましては、決まり次第ホームページにてご案内いたします。ぜひ最新情報をご確認ください。

作曲家

松井孝夫先生がご来園されました



幼稚園でも歌っている「マイバード」「流れゆく雲を見つめて」「未来へのステップ」等、数々の名曲を世に送り出した松井先生に直接ご指導いただきました♪

～編集後記～

東京いずみ幼稚園の50周年を迎えるにあたり、卒園生の皆さまから多くの温かい声をお寄せいただき、心より感謝申し上げます。「継続は力なり」という言葉が、卒園後も多くの方の中で生き続けていることに、園の歩みの確かさを感じました。子どもたちが自分で考え、行動できる力は、ここ「いずみ」で育まれてきた宝物です。これからも、いずみ幼稚園が人生の原点として、記憶に残り続けますように。



Instagram
園の様子を更新中！



東京いずみ幼稚園
公式LINE

